

| 方式・日程 | 問題番号 | 出題分野 | 出題内容 |
|------------------------------|------|-------|---|
| A I 方式 1月18日 問題▶p.122～ | 第1問 | 古代 | 史料問題ほか（倭の五王、東アジアとの関わり、平安時代の政治、平安時代の文化） |
| | 第2問 | 中世 | 南北朝～室町時代（建武の新政、南北朝の争乱、院政期の荘園、室町時代の政治・社会・外交） |
| | 第3問 | 近代・現代 | 史料問題（日英同盟協約の内容、日露戦争、近・現代の政治と外交） |
| A I 方式 1月19日 問題▶p.125～ | 第1問 | 古代 | 史料問題（奈良時代の文化、律令制のしくみ、奈良時代の政治） |
| | 第2問 | 中世 | 室町時代（室町時代の将軍と政変、応仁の乱、室町時代の文化・社会、戦国大名、山城国一揆） |
| | 第3問 | 近代 | 史料問題ほか（五榜の啓示、神道、明治時代の教育、工場法、近代の労働者） |

傾向 ◀ 古代・中世・近代の出題割合がほぼ均等、標準レベルの問題が大部分を占める。

1 出題形式

1月18日と1月19日ともに、大問数が3つ、小問数が36問という構成である。

解答方式は、すべて番号を選ぶ形のマークシート方式である。設問形式は、空欄完成・正誤4択・年代配列・2文正誤問題などで構成されている。センター入試の出題パターンに準じている。

2 出題内容

各大問とも、政治を中心に、外交、社会、文化などさまざまな内容が出題されている。

今年度は、**古代史**、**中世史**、**近代史**がほぼ3分の1ずつ均等に
出題されるという特徴が見られた。中でも、1月18日は古墳時代、平安時代、室町時代、明治時代、1月19日は奈良時代、室町時代、明治時代がほとんどを占めるというように、時代に偏りのある出題構成となっている。近世からの出題は例年あまり見られない。

また、**史料問題**は増加傾向にあり、どちらの日程でも出題が見られた。1月18日には『宋書』倭国伝と「日英同盟協約」、1月19日には『貧窮問答歌』と「工場法」が出題された。史料自体は教科書などにも掲載されているものであり難易度は高くないものの、史料の基本的な内容を記憶していることや、文中の語句や設問文などから内容をすばやく把握する力が求められた。

このほか、写真を用いた文化史の問題も、例年出題が見られる。今年度は、1月18日に美術品、1月19日に土器に関する問題が出題された。

3 難易度

教科書の内容を正確に押さえれば対応できる問題が大部分を占めている。一部に難度の高い事項も出題され、高度な知識を必要とする問題や消去法などを用いなければ答えにくい問題もあるが、全体としては標準的な難易度であるといえるだろう。

対策 ◀ 教科書から始める段階的学習、知識を活用し応用力を身につける。

1 教科書を中心に、段階的に学習を進めよう

第1段階では、歴史の**大きな流れ**をとらえるため、教科書を読み込む学習が効果的である。あわせて、空欄補充でキーワードを答えさせる整理ノート形式の教材や、1問1答式の問題集も活用するとよい。

第2段階では、キーワードを答えられるだけでなく、その内容が理解できているか、正誤問題に取り組むとよい。**5W1Hの要素**（いつ・どこで・だれが・なにを・なぜ・どうやって）は分かっているつもりでも、正誤問題を解いてみると、自分の理解の不足している要素を発見できる。正誤問題で正答率が高まるということは、正確で詳細な知識が身につけているということである。

第3段階では、政治史、外交史、経済史、文化史など、**テーマ別の通史**を学習しよう。時代ごとに学習してきた内容をテーマごとにとらえ直すことで、体系的な理解を深めることができる。また、実際の入試問題ではテーマに沿った出題が行われることが多いので、そうした切り口に慣れておくという意味でも大切である。できれば、「文化」「土地制度」といったテーマ別に、自分でノートに整理し直してみることをお勧めする。関連する歴史地図や写真を貼るなど、自分なりに要点をまとめることが重要だ。

2 史料・資料問題の対策を

教科書に掲載されているような基本的な史料については、繰り返し読み込んで内容やキーワードを覚えておきたい。史料の内容に関連する出来事や前後の流れなど、**背景や因果関係**を押さえておくことも重要である。

文化史の学習には、**資料集**を用いるのが効果的である。特に美術品は、今年度の問題にも見られるように写真が出題されることが多い。作品名や作者名を覚えるだけでなく、実物の写真を確認しておくことが必要である。単純に見て覚えるだけでなく、時代ごとの特徴、作風や技法の変化などを写真から探してみると、理解や興味が深まるだろう。

3 知識を活用し、応用力をつけよう

既に授業や自習で十分な知識を蓄えていても、実際の入試に対応するには、**応用力や慣れ**が必要である。問題集や過去問などで問題演習を積み、知識を補いながら実戦的な力を養っていこう。史料問題については、多くの問題に取り組んで、初めて見る史料から情報を読み取ったり内容を推測したりする練習も積んでおきたい。

そのほか、歴史に関する時事的な話題が問題の題材として使われることもあるので、歴史に関連するニュースにも関心を持つようにするよだろう。